

## 👉 1 単位時間の授業構想における留意事項

### 単元の指導計画があって、1 単位時間の指導があります

- まず、単元指導計画を作成し、単元における単位時間の役割や位置付けを明確にします。  
「1 時間完結型授業」とは、単元における単位時間の役割や位置付けが明確な授業のことです。
- 単元の評価計画に基づき、本時の評価規準を設定します。  
本時の評価規準は、実際に評価できるような具体性のあるものにしましょう。

※音楽や家庭科等は、単元ではなく「題材」として計画します。

### 「課題」を設定する際は、児童生徒の問題意識を喚起するように設定します

- 前触れもなく、唐突に「課題」を位置付けるのではなく、前時を振り返ったり、児童生徒に疑問を持たせたりしながら、「課題」に対し、自然に児童生徒の意識が向くように工夫します。
- 「課題」には、「既習事項とのズレ」「適度な壁」「素朴な驚きや疑問」等が大切です。
- 「課題」を設定したら、それに対応する「まとめ」を設定しましょう。その際、問いと答えの関係が成立しているか、子どもに分かる言葉なのか、無理がないか吟味が必要です。

### 「板書の構造化」・「板書とノートの一体化」……「対面指導」の時こそ必要です

- 例えば、「何を学ぶのかをつかめる板書」「学習内容の概要を振り返ることができる板書」等、子どもが見た時に、どこに何が書かれているのかが分かる板書を心がけましょう。
- 板書と子どものノートを一体化させ、子どもが家庭学習でも、授業の内容を思い起こすことができるようにしましょう。

### 「振り返り」……振り返りの内容を考えるときは、現在、過去、未来という視点で

- 学習のプロセスや成果を振り返る・・・何をしたか。何が大切か。何ができるようになったか。等
- 過去の経験や学習と関連付ける・・・日常生活や既習事項とどんな関連があるか。等
- 次回の学びへつなげる・・・もっと考えたいこと、調べたいことは何か。  
改善には何が必要か。等

### 「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」の4つの要素を適切に設定します

- 毎時間の授業で、4つの要素がすべて必要だというわけではありません。
- 例えば、単元を見通した「めあて」が設定されており、本時の授業が開始される前から、子どもが「めあて」を意識しているならば、確認するだけでよい場合があります。
- また、「めあて」を設定し、発問等によって追究する事柄が明確になれば、改めて「課題」として設定しなくてもよい場合もあります。
- 「振り返り」は、単元指導計画の位置付けにより、短時間で行う簡潔な「振り返り」や時間を充分にかける「振り返り」等、様々に考えられます。